

令和3年度 授業改善推進プランの作成について

大田区立東六郷小学校

【①国語科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 当該学年の漢字の読み書きは、ドリルや漢字ノート等を使った繰り返しの練習を指導したことで、しっかりと身に付けることができた。
- ・ 中学年で、知らない言葉に出会った時に、辞書を引く機会作り、身に付けさせる指導を行ったことで、国語辞典の使い方への理解が高まり、語彙力や読解力にもつながった。
- ・ 文章の読み取りでは、動作化や導入の工夫などにより文章を身近なものとして捉えることができ、主体的に学習に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・ 活用の部分では、資料を読み取り自分の考えや理由を文章にまとめたり、話し合いで自分の考えを友達の意見と関連付けて考えたりすることが課題である。
- ・ 言語について、当該学年の配当漢字の学習はできているが、前学年の既習漢字の読み書きで忘れてきているものがあつた。当該学年以前の既習漢字も意識した復習・活用が、課題である。
- ・ 中学年では主語と述語や段落などの文章の構成を意識させて、分かりやすく書く力を付ける事が昨年度からの課題であつたが、引き続きの課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	目標値を僅かに（1点）上回っている。		
第5学年	目標値を（5点）上回っている。	目標値を僅かに上回っている。（第4学年時）	
第6学年	目標値を（8点）上回っている。	目標値を僅かに下回っている。（第5学年時）	目標値を上回っている。（第4学年時）

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 概ねできており、目標値を（4点）上回っている。・ 前年度に学習した漢字の読みで、目標値を下回る問題があつた。・ 主語と述語の理解で目標値を下回っている問題があつた。・ 段落の役割や2段落構成の	<ul style="list-style-type: none">・ 概ねできているが、目標値を僅かに（2点）下回っている。・ 読むことはどの問題も目標値を上回り、目立つ課題は見られない。・ 書くことは目標値を大きく（12点）下回っている。表を読み取り、自分の考えとそれを支える事例との関係を明	<ul style="list-style-type: none">・ 目標値を、（10点）下回っている。・ 書くことに慣れておらず、それにより主体的に取り組むことができない部分が大いと思われる。

文章の書き方の理解に課題がある。	確にして書いたり、2段落構成で文章を書いたり、内容の中心を明らかにし、自分の考えや事実を伝える文章を書くことに課題がある。	
------------------	---	--

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 概ねよくできており、5年・6年共に目標値を上回っている。特に6年生は、大きく(10点)上回っていた。 前年度に学習した漢字の読みで、目標値を下回る問題があった。 語彙力や慣用句などの知識では児童間の差が大きかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことは5年・6年共に目標値を上回っている。5年生では、理由を明確にして自分の考えを書く力を問う問題では、目標値をやや下回っていた。6年生では、文章全体の構成や書き表し方に着目して文章を整える問題で目標値を下回っていた。 読むことも5年・6年ともに目標値を上回っている。5年生では、説明文の中心となる語や文を見つけ、大事なところを捉え要約する問題で目標値を下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年・6年ともに目標値を上回っている。 進んで話す・聞く・書くはできているが、コミュニケーションに関わる、意見の共通点に着目して聞き、考えをまとめる問題や、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書く問題で目標値を下回っていた。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 平仮名・片仮名・漢字の読み書きを確実に身に付けられるよう繰り返し練習させる。前学期や前学年に学習したのも、宿題などで取り上げ、しっかりと定着させる。 主語と述語が噛み合わない文のねじれをその時々で指導し、正しい文のイメージを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想や理由を入れた自分の考え、つなぎ言葉を入れた簡単な説明文など、児童の実態に応じた手本文を用意し、モデル文を示して文章を書くことに慣れさせる。 物語文では、場面の様子や登場人物の行動の変化に着目させ、様子や気持ちを考えながら読ませる。 説明文では、問い、答えを意識して読ませる。 「どうしてか」というと〜だからです。」といった話型を意識しながら、自分の考えを話す機会を、授業の中で多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 声に出して読んだり動作を入れたりしながら、作品を楽しみ、身近なこととして文章の内容を理解させる。 学習課題を明示することにより、課題の解決に向けて進んで意見を出し合うなど主体的な学習を促す。 ICTを活用する。視覚的に理解できるような教材を多く提示する。 感想や考えや感想を交流

		する。
--	--	-----

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現・	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 知らない言葉に出会った時に、辞書を引く機会作り、身に付けさせる。 主語と述語との関係、修飾語と被修飾語の関係に注意し、文の構成について初歩的な理解をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を意識して書くために、「はじめ・中・終わり」と各段落の内容を、構成メモを使ってまとめさせる。 モデル文を示し、中心をはっきりさせて、文章構成を意識しながら正しく書かせる。 説明文では、段落や前後の文章、中心となる語や文章に、傍線を引いてつながりを意識して読ませる。 資料や表をもとに、文章を書いたり説明したりする活動を積極的に取り入れる。 話し合い活動では、同じ・付け足し・反対・違うなど、友達の意見を踏まえ、自分の意見を言うようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて進んで取り組めるよう、自分たちの学習課題を考えさせる。 物語の世界に浸ったり、自分の経験を想起させたりして筆者の考えを理解しようとさせる等、教材が身近に感じられるよう導入を工夫する。 ICTを活用し、相手意識をもち、感想や考えを交流する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語、常体や敬体などを意識して読み書きを行い、基本的な理解を徹底させる。 引き続き、習った漢字を文や文章の中で使うよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数種類の資料を通して、資料を読むポイントを理解させる。 読み取った内容や文章表現に対して、傍線を引いて文ごとのつながりを意識させ、自分の意見をまとめさせる。 資料から分かることや、分析して自分が考えたことを書きだし、モデル文の文章量を目安にして文章量に合わせて考えをまとめて文章を書かせる。 説明文の中心となる語や文を見つけ、大事なところを捉え決められた字数で要約する活動を、積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて進んで取り組めるよう、自分たちの学習課題を考えさせる。 ICTを活用し、視覚的に理解できるように教材を多く提示する。 自分の考えをもつだけでなく、友達の考えを聞き交流する場面をもたせることで、多様な考えと比較してより理解が深まることを実感させる。

【②社会科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・昨年度に引き続き意欲をもって調べ学習を行う姿が、よく見られた。
- ・教科書や資料集に書かれている文章や図、グラフなどを繰り返し読み取る活動を重点的に行ったことで、資料を活用する能力が向上した。また、資料から読み取ったことを考察して自分の言葉でまとめる力も定着してきた。

(2) 課題

- ・5年生の学習では、国土や漁業での資料を活用力が不十分である。
- ・6年生の学習では、歴史学習を自分事として考える力が弱い。
- ・地形の特徴や位置関係、地図記号などの定着が不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	標準スコアを下回った。		
第5学年	標準スコアを僅かに上回った。	標準スコアを僅かに下回った。(第4学年時)	
第6学年	標準スコアを僅かに上回った。	標準スコアを僅かに上回った。(第5学年時)	標準スコアを僅かに下回った。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を僅かに上回っている。教室や廊下掲示を充実させ、常に社会的事象に児童がふれていられる環境を整えた。	目標値と同程度となっている。学習したことを生かして地図に書き込んだり、まとめたりできてきた。地図に色を塗ったり、細かく読み取ったりする活動を充実させた。	目標値を僅かに上回っている。自分から習っていることを確かめに行ったり、調べたりする姿が多かった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に対して、5年生、6年生ともに僅かに上回っている。基本的な知識の確実な定着が見られて	目標値に対して、5年生、6年生ともに僅かに上回っている。各単元の基礎的な問題だけでなく、単元によっては資料を活用	目標値に対して、5年生、6年生ともに僅かに上回っている。歴史学習を身近に感じることが難しくなっている。

いる。一方で、都道府県や地図記号の理解が不十分である。	する問題もできており、高学年で大切な、資料を読み取る力もついてきている。一方、国土の特長と水産業についての学習の定着が不十分である。	
-----------------------------	--	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
都道府県や地図記号の理解が不十分である。定着するまで何度も確認していく。昔のくらしの様子や道具については、実物を提示することで、当時の道具の役割や特徴を捉えられるようにする。	資料を読み取り、そこからどのようなことがわかったか、またどのようなことを考えたかを文章にまとめる活動を充実させる。 資料の数値を正確に読み取るだけでなく、比較するなどの見方を身に付けさせていく。	見通しをもった学習問題、学習計画を立てることを徹底する。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書、資料集に書かれている文章や図、グラフなどを繰り返し正確に読ませていく。また単元の中心となることからは教室掲示し、確実な定着を図る。	国土では、特に日本の地形の特長や北方領土、水産業では海流や日本周辺の漁場についてなどさらに思考が深められるようにグラフや写真、映像資料を用いるようにする。	見通しをもった学習問題、学習計画を立てることを徹底する。自分事として事象を捉えられるように、身近にあるものを活用するなど、導入を工夫する。

【③算数】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

- ・学習課題を明示し、具体物を活用して児童の思考の補助を行うようにすることで、児童が見通しをもって学習に取り組みやすくなり、主体的に課題に取り組もうとする姿が多く見られるようになった。

- ・問題の題意を正しくとらえるため、既習の学習を想起させたり、問題文の中にある数の単

位や演算決定のキーワードになる言葉にラインや印を付けたりすることを継続した。すると、正しく立式できる児童がさらに増えた。

(2) 課題

- 文章題になると、学習課題の読み取りができずに、問題の意図に即した解答ができない児童がまだ多い。読解力を基礎とした、思考・判断を高める学習に取り組み、柔軟な発想や学んだことを活用する力を高める。

- 算数科における基礎・基本となる計算力、公式理解の確実な定着が多くの児童で成されていない。引き続き、既習事項の振り返り、繰り返し練習、ICTの効果的な活用による学習を積み重ね、基礎計算力を高められるようにする。

- 解答に至っても、その経緯を言語で説明できない児童が多い。自力解決後の、ポイントを明確にして児童が対話したり考えを発表したりする場面を取り入れ、自らの考え方を広げたり深めたりできるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	校内平均は目標値を上回り、基礎の正答率も区平均を上回る。一方、活用の正答率は若干下回っている。		
第5学年	校内平均は目標値を上回り、基礎の正答率も区平均を大きく上回る。一方、活用の正答率は下回っている。	教科全体で見ると、標準スコアとほぼ同等である。(第4学年時)	
第6学年	校内平均は目標値を上回り、基礎の正答率も区平均を大きく上回る。一方、活用の正答率は下回っている。	数量関係、「数学的な考え方」、「図形」以外は標準スコアを下回っている。(第5学年時)	各領域において標準スコアを上回っている。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な数量や図形についての知識、技能とともに身に付けている児童が多く、目標値を上回っている。	データを活用したり、図形の特徴を正しい言葉で表現したりすることができない児童が多い。	与えられた課題に対し、熱心に取り組む児童が多い。さらに難易度が高い問いにも関心をもって取り組めるようになるとうい。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算の仕方を身に付けている児童が多い。しかし、既習事項が定着していない児童も決して少なくはない。次の単元が始まると習ったことを忘れてしまい、積み重なっていかない様子が見られる。	題意をとらえて、正しく立式をしたり、2つの数の関係を説明したりすることができる児童が少なく、目標値を大きく下回っている。	意欲的に取り組める児童が多いが、苦手意識が強く、意欲的になれない児童も見られる。新たな問題に進んで挑戦する姿勢があるとよい。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数の概念や、基本的な計算の型を確実に身に付けられるよう、授業の導入で計算カードや具体物などを使い、反復練習を行って基礎的な知識を定着させる。	問題文の大切な所に印を付け、題意を正確に把握できるようにする。具体物や半具体物を用いた操作活動から気付いたことを伝え合う活動を通して、自分の考えたことを表現する力を高める。	児童が関心をもって課題に取り組めるように、自分の考えを伝え合う活動を通して、考えを広げたり深めたりすることの楽しさに気付くようにしていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
算数に必要な公式や作図方法、専門用語、基礎的な四則計算の方法を、登場した機会に反復を繰り返し、確実に定着させる。	問題文の大切な所に印を付け、題意を正確に把握できるようにする。また、図・ICTを活用して説明する活動、式と関連付けて説明する活動など、児童が考えを伝え合う活動を設け、自らの考えを広げ、深められるようにする。	日常生活に関連付けた課題、実際の数量を確かめる体験活動を基に、自分の考えを伝え合う活動をする。その中で自分の考えを伝えたいという意欲を高めていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
算数に必要な公式や作図方法、専門用語、基礎的な四則計算の方法を、登場した機会	問題文の題意を正確に把握できるように工夫を促す。計算や図形の弁別など、根拠を	自分の生活や他教科、既習事項との関連を踏まえながら、児童が見通しをもって、自分

に反復を繰り返し、確実に定着させる。ICT機器を効果的に活用することで、計算処理力や図形弁別力を伸ばしていけるようにする。	もって、児童が考えを伝え合う活動を設け、自らの考えを広げ、深められるようにする。ICTを活用し、考え方を共有していく。	の考えを伝え、主体的に学習に取り組めるようにする。
---	---	---------------------------

【④理科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験器具の名称や正しい使い方を意識的に指導や、観察の視点を明確にする指導を繰り返したことにより、定着が見られた。
- ・まとめの時間を確保したことで、自分の言葉でまとめようとする意欲が高まった。

(2) 課題

- ・図やグラフ等を活用した表現への理解が不十分である。
- ・自分事として見通しをもって意欲的に学習に取り組む力が弱い。
- ・学習したことを発展させて調べようとする意欲が育たなかった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	目標値とほぼ同等の結果である。		
第5学年	前年度より正答率が約10%向上した。	標準スコアを下回っている。(第4学年時)	
第6学年	前年度より正答率が約5%向上した。	標準スコアを下回っている。(第5学年時)	標準スコアとほぼ同じ。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生命、地球の分野の理解度は	実験の結果から分かったこ	観察や実験に対して、約6割

高い。エネルギーの分野で電気を通す物やつなぎ方に課題がある。	となど、理由を明確にして説明することが苦手な傾向がある。	の児童が意欲的に取り組んでいる。
--------------------------------	------------------------------	------------------

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に理解度が高い。エネルギー分野の電流のはたらきや粒子分野の物のあたためり方やとけ方にやや課題がある。	既習事項から予想を立てたり実験方法を考えたりすることがやや苦手な傾向がある。	観察や実験に対して、約6割の児童が意欲的に取り組んでいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年につながりがある、電気を通す物やつなぎ方を中心に磁石の性質や昆虫のからだのつくりなど、具体物を示して知識を定着させていく。	順序立てて説明するために、話型を示す。一人一人がなぜだろうと思える問題との出会いに力を入れていく。	自然に親しみながら継続的・持続的な直接体験を繰り返して積み重ねる学習活動を取り入れる。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
グラフから変化を読み取る力や過去の実験結果から予測する力など、見通しをもって学ぶ活動を取り入れていく。	実験を行う前に既習事項の確認を行う。学校で実施可能な実験方法を考える時間を確保する。その際、条件制御などを意識させる。	自然の不思議さを自ら対象に働きかけながら結果を追及する学習活動を取り入れる。

【⑤生活科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

（1） 成果

- ・児童一人一人が、願いや思いをもち、植物を育てる活動を通して、生長の様子を捉え確かな実りを実感することができた。
- ・生活科見学で、身近な自然に触れ合うことができた。（どんぐり拾いなど）

・町探検活動を通し、まちの人と触れ合うことができた。また、同時に地域を大切にしたいとの気持ちをもたせることができた。

(2) 課題

- ・身近な自然の変化、違いや特徴を見付けることが苦手である。
- ・自然を利用した遊びを知らないために遊ぶことができない。
- ・身近に生活を豊かにする公共物や公共施設があることを知っている児童が少なく、また、利用方法を知らない児童がいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・身近な自然を観察したり、季節や行事に関わったりする活動を通して、違いや特徴を見付けることができるようにする。また、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気付けられるようにする。 (例：朝顔や野菜作り、校庭の木々の様子、自分たちが住む町の様子等。)</p> <p>・自然を利用した遊びや自然の不思議を感じ楽しむ活動を積極的にを行い、それらの面白さや自然の不思議さに気付かせる。 (例、春：草花遊び。夏：水遊び。秋：木の実や葉を使いおもちゃ作り。冬：氷遊びや風遊び)</p> <p>・生命及び自然に対する興味や愛情を認め、さらに生命や自然に対する思考に至るような活動や言葉かけを工夫していく。</p> <p>・自分自身を見つめる機会を通して、自分の生活や成長には身近な人々の支えがあることに気付けるようにする。</p>	<p>・多様な児童の発言や表現を丁寧に見とるようにする。児童の思いや願いに寄り添い指導していく。</p> <p>・様々な人（友達、家族、学校の人々、公共施設で働く人々）との関わりを大切に、夢や希望を膨らませ、生活を豊かにしていく。</p> <p>・自分が思ったことを伝え合い、交流する時間を十分にとる。また思ったことを表す手段を様々な認め、児童が表現していけるよう支援していく。</p>	<p>・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物に目を向け地域との関わりをもてる活動を設定する。それによって社会の一員としての安全で適切な行動をしようとする態度を育てる。(例：身近な公園や図書館等に行き、公共物や公共施設の利用方法を学ぶ。)</p> <p>・日常的に動植物にふれる機会をもてるよう工夫する。それらを観察したり、体験したりすることにより、生命及び自然に対する思考にいたるよう言葉かけをしていく。</p> <p>・自分の願いや思いをもち活動させ、学習に対する意欲を更にもたせる。(学習時間中にご紹介タイムなどの時間を設ける。)</p> <p>・グループ活動は、話し合う活動を十分にとり、友達と気付きを比較したり、再思考したりして新たな活動を考えさせる。また活動から気付いたことや感じたことを発表する時間を設け、教師や友達が認めたり褒めたりする機会を多くとるようにする。</p>

【⑥音楽科】

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・歌唱や鑑賞活動において、曲想から感じ取った音楽の良さを音楽的要素と関連付けて考えたり、発言したりすることができてきた。

(2) 課題

・音楽的要素と関連付けて曲を分析することはできているが、表現に結びついていない。
 今後は児童が自主的に表現を工夫する活動へつなげるため、基礎的な技能や知識を確認させ、一人ひとりが考えながら演奏できる指導を進めていく。また、コロナ禍ではあるが工夫してグループ活動などを取り入れ児童が協働して音楽活動をする場を設ける。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な楽器に触れる機会を増やし、基礎的な技能を身に付ける。また、曲想と音楽の構造などの関わりに気づいている。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽表現をする上でのように表すか思いをもって演奏したり聴いたりする。	・音楽活動を楽しみながら、すすんで音楽に関わり、曲を聴いたり演奏したりする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な楽器に触れる機会を増やし、基礎的な技能を身に付ける。また表現の工夫に繋げるための音楽的要素と関連させながら知識を身につける。	・曲想に対する表現方法を音楽的要素と関連させながら自分なりに意図をもって考え、表現したり、鑑賞したりする。	・音楽活動を楽しみながら、すすんで音楽活動に関わり、感じたことや気が付いたことを主体的・協働的に伝えることができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。	・曲想に対する表現方法を音楽的要素と関連させながら自分なりに意図をもって考え、表現したり、鑑賞したりする。	・音楽活動を楽しみながら、すすんで音楽に関わり、感じたことや気が付いたことを根拠をもって伝えることができるようにする。

【⑦図画工作科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・図画工作における学習ルールが定着してきた。
- ・教師に聞く前に、自分で考えてみようとする場面が増えてきた。
- ・鑑賞の場面では、積極的に発言・表現しようとする児童が増えた。

(2) 課題

- ・複合的な題材では、既習事項を生かし切れていない場面が見受けられる。経験不足を補うための用具・道具の習練等、製作経験をもっと増やす必要がある。
- ・完成までの見通しを持つことが難しい児童が目立つ。まず何から始めたらいいか、次に何をしたらいいか、どこまでやったら完成なのか、イメージできる力を育てる必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手や体全体の感覚や技能を働かせてつくる活動を多く設定し、身近な材料や扱いやすい用具で色や形を試しながら、経験的に技法を身につけさせていく。	感じたことや想像したことから、表したいことやつくりたいものを見つけて表せるよう、造形遊びの中で楽しみながら試していく活動を多く取り入れる。	進んで表したり見たりして造形活動を楽しめるよう、身近にある多種多様な材料を基に、体を使って密を避けながら取り組める素材体験活動を増やしていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前学年までの材料や用具についての経験と既習に重ね、新たな用具を正しく安全に使うための基礎技術と、表現によっての使い分ける技能を、繰り返し習得させていくことに時間をかけていく。	身近な材料や場所などを基に発想してつくることのできるよう、教室以外の場も活用し学習環境に変化を持たせる。密を避けつつ、みんなで考えを共有できるような場面設定を行っていく。	進んで表現したり鑑賞したり、つくり出す喜びをあげ合わせるような題材選びと、目的や面白さ、学習ルールなどを友だちとの距離を確保しつつ共有できる活動を工夫し組み込んでいく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の表現に適した方法を選択したり、組み合わせたりして創造的な技能を総合的にはたらかせて表現できるよう、様々な材料や用具を揃え、試せる環境を充実させていく。	材料や場所の特徴を基に構成したり、自分が表したいことや伝えたいことを見つけて構想したりできるよう、作品により思い入れを持ちやすい題材を設定し、目的や用途に目を向けて考えさせていく。	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、自分の表したいことを見つけて表せるよう、児童の個々のテーマを持たせ、イメージと見通し（計画）を確認しながら活動できるようにする。

【⑧家庭科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・衣食住などに関する実践的・体験的な活動への関心は高く、技術面で個人差はあるものの裁縫・洗濯などの活動に意欲的に取り組む児童が多かった。
- ・家庭での実践課題にはよく取り組んだ。家庭からの励ましを受けて意欲を高める児童も多かった。

(2) 課題

- ・家庭における自らの役割が明確でなかったり、生活実感が乏しかったりするためか、児童の主体的創意工夫は十分とはいえない。自分の考えの幅を広げ、課題解決に向けた選択肢を増やしていく必要がある。さらに、そこから課題に合わせた優先度に気付かせ、数ある考えの中からよりよい生活の在り方を決定できるようにしていくことが必要である。
- ・感染症予防対策をとりながら、調理実習の方法を検討する必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に合わせた技能習得の場を設定し、ICT教材を活用しながら指導を行う。 ・用語・用具の使い方も知識として習得させる。 ・児童自らが課題を設定し、解決のため学習を進める問題解決型学習を行うことで、学んだ知識をより深く理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが豊かな発想をできるような授業環境を作る。 ・校内の清掃活動中の様子や給食の配膳時の盛りつけ方など児童の工夫を確実に見取り、賞賛の言葉かけをしたり、学級全体に紹介して広めたりする。 ・児童一人一人の考えを分類・整理して、課題解決の優先度に気付けるようにしたり、設定した条件の中で考えを選択したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活を振り返り、家族の一員としての意識を高め、実際に自分の知識や技能を生活に生かせる学習の場を設定する。 ・長期休業中を含め、家庭での実践を計画的に取り入れる。 ・児童が関心をもち、楽しく取り組んでいけるよう題材や資料などを工夫する。 ・各家庭で実践している調理や掃除の工夫をインタビューする活動を取り入れ、課題に関心をもって取り組めるようにする。

【⑨体育科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・めあてを明確化することで、児童が主体的に活動に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・普段の授業におけるICTの活用が不十分であった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
その動きができるようにそれぞれの運動に楽しく取り組む。	簡単な遊び方を工夫できるようにする。	・めあてを明確にし、運動を楽しく行い、体を動かす楽しさを味わえるよう取り組む。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
電子黒板で動画を視聴して、健康な生活及び体の発育・発達について理解したり、タブレットで自分の動きを撮影して運動のポイントを確認したりする。	自己の能力に適した課題をもち、めあてを達成できるようにするための活動を工夫できるようにする。	・めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動を楽しくできるように取り組む。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
電子黒板で動画を視聴して、心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解したり、タブレットでお互いの動きを撮影して、運動のポイントを児童同士教え合ったりする	自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫できるようにする。	・めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、体力を高められるよう取り組む。